令和５年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　志村第一中　学校

■児童・生徒の学力の状況

・日常の授業においては、授業への妨害行為や教員への迷惑行為もなく、全員が大変落ち着いた状態で授業に臨むことができているが、全国学力・学習状況調査の結果より、全国平均は上回るが、全ての教科において、東京都平均を僅かながら下回る結果となっている。
・意識調査の結果から、塾に通っている生徒が少なく、学校での学習の重要さを認識している。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

・全教科・領域においての授業の流れについて、教科書の文章や問題文の意味や意図を正しく認識し（Input)、自分の考えをもち（Think)、他者に伝える（Output）の活動の「読み解く力の育成」の活動が、一部の教科において、徹底できていない部分がある。
・板橋区授業スタンダードにおいても、完璧に徹底ができていないことが課題。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

・「板橋区授業スタンダード」に沿った授業を展開し、生徒の基礎学力の定着を徹底する。さらにはアウトプット型の授業のめあての設定の徹底を図る。
・読み解く力の育成において、特に自らの考えをアウトプットをする活動を重視する。
・ICT機器の活用は、授業内における「調べ学習」の割合を減らし、協働学習や、授業のまとめを含めた主体的な学習で活用するよう指導の徹底を図る。
・板書写経型からの授業の脱却に際し、協働学習を展開していく。
・総合的な学習の時間のみならず、いろいろな場面において【探究】する時間の充実を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 総合的な学習の時間との連携
・全ての授業においてめあてを必ず提示する。 ・板書写経型を代表とした、教師主導の一方的な授業からの脱却を図る。	・全教科・全領域において、授業内にて自分の考えをアウトプットする活動の充実に向けて授業改善を図る。	・研究主任を中心に、総合的な学習の時間と教科の横断的な活動の在り方について、研究を深めていく。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
・「コミュニティを探究する」を小中一貫教育の主題とし、年間を通して小中の連携を深めていく。 ・上記の探究を中心に、板橋のiカリキュラムを推進することで、義務教育９年間の学びを実践することで、中学校入学時のつまずきを防止し、より一層の学力の定着・向上を図り、変化の激しい社会をたくましく生き抜く力を身に付ける環境を、学びのエリアを通して整えていく。	・学びのエリア内にて、本校においては年間１回の「探究」をテーマとした総合的な学習の時間の授業公開を実施し、総合的な学習の時間の充実を図る。 ・学びのエリアにおける「探究」に関わる授業公開の研究協議会において、大学教授を講師して招聘し、指導・助言をいただくことで、エリア全体の教育の資質・能力の向上を図る。	・特に第７学年においては、毎日の授業において端末を活用し、授業に取り組むことができている。 ・美術の授業においても、端末を活用した作品作りを実施するなど、端末の使用頻度が増加している。 ・ICT支援員を有効的に活用するなどし、端末の活用が広がっており、Googleのシステムを活用した協働的な学びの充実が図られている。